

評価日：2026年6月30日

株式会社彩重機エンジニアリング

むさしのフレンズローンNEXT評価書

株式会社ぶぎん地域経済研究所

本文書は、株式会社武蔵野銀行（以下、「武蔵野銀行」という）が株式会社彩重機エンジニアリング（以下、当社という）に対して取り組む「むさしのフレンズローン NEXT」に対するオピニオンである。「むさしのフレンズローン NEXT」は、ローン・マーケット・アソシエーション（LMA）等の「サステナビリティ・リンク・ローン原則」及び環境省の「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」を参考に、サステナビリティに係る有意義な目標を設定した中堅・中小企業向けのサステナブルファイナンスであり、武蔵野銀行は融資の取り組みを通じて借り手のサステナビリティ経営を支援する。なお、本文書は、「むさしのフレンズローン NEXT」が上記の「サステナビリティ・リンク・ローン原則」又は「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」に記載された諸原則に適合していることを何ら保証するものではない。

1. 会社概要とサステナビリティ方針

（1）会社概要

当社は 2024 年 3 月に創業。埼玉県熊谷市に本社を構え、建設機械・重機の修理、買取、販売、輸出を専門とする企業である。創業から 3 年目でありながら、熊谷市という地域社会に深く根ざしつつ、国内のみならず海外市場のニーズにも機動的に対応するグローバルなビジネスを展開している。高い修理・点検技術を強みに、中古建機やトラック、パーツの流通を通じて、建設業界を支える重要なパートナーとして着実に業容を拡大している。

（2）サステナビリティ

当社は、「一人ひとりの個性が輝き、地域と世界に必要とされる企業を目指しています。」という理念のもと、高品質なサービスの提供に努めている。

当社のサステナビリティ方針は、独立した形式的な文書としてではなく、本業である「建設機械・重機の修理・メンテナンス、買取、販売・輸出、部品・パーツ販売を通じて社会・環境課題を解決する持続可能なビジネスモデルそのものとして定義している。ビジョンとして「持続可能なビジネスモデルを創造し、社会や環境問題の解決に貢献する企業を目指しています。」を掲げているほか、「5つのアプリケーション・アプローチ」を軸に持続可能な価値の永続的な発展を目指している。本ローンの取り組みを機に、環境負荷の軽減に向けて、自社が排出するCO2の削減を本格的に進める。

5つのコミュニケーション・アプローチ

1. お客様とのコミュニケーション：高品質な製品・サービスによるパートナーシップ構築
2. 社会・お取引先とのコミュニケーション：熊谷から世界へ、公平・公正な関係による地域・グローバル貢献
3. 社員とのコミュニケーション：多様性を尊重し、自分らしく成長できるウェルビーイングの追求
4. 環境とのコミュニケーション：建設機械事業を通じた環境配慮型ビジネスの推進
5. 環境型社会への貢献：本業（リサイクル・リユース）を通じ地球環境の保護

2. KPI・SPTsの選定

（1）KPI・SPTsの概要

環境負荷の軽減および組織基盤強化に向けた重点項目として、自社が直接管理・統制できる範囲である「CO2排出量（原単位ベース）の削減」をKPIとして選定した。

（2）KPI・SPTsの重要性

選定されたKPIは、環境負荷の軽減につながる取り組みであり、当社のサステナビリティ経営において重要な意味を持つ。当社の本業である建設機械・重機の修理、買取、販売業は出張修理、ヤード内でのエネルギー消費など、温室効果ガス排出に直結するプロセスを含んでいる。したがって、Scope 1（直接排出）およびScope 2（間接排出）の自社策定と削減に取り組むことは、経営ビジョンである「環境問題の解決への貢献」と高い関連性・整合性がある。

（3）当社のKPI・SPTsに関する問題や課題

当社がKPIを管理、達成する上での主な課題は設備の入れ替えに伴う費用負担だが、財務の内容は安定しており支払いに対する不安はない。

3. 年度別目標の設定

（1）年度別目標の概要

当社は、KPI・SPTsとなる「CO2排出量（原単位ベース）の削減」について、2029年度末までに2024年度比▲13.5%となるように毎年度の目標を設定した。

【融資期間：2026年6月～2031年6月（5か年）】						
年度	（基準年） 2026年度	（目標） 2027年度	（目標） 2028年度	（目標） 2029年度	（目標） 2030年度	（目標） 2031年度
CO2排出量 （t-CO2/億円）	1.04	1.01	0.98	0.95	0.93	0.90
2026年度比削減率 （%）	—	▲2.7	▲5.4	▲8.1	▲10.8	▲13.5
※2026年度：2025年2月から2026年2月までの会計年度						

（２）年度別目標の政府・業界等の目標等との比較

2029年度末までの削減目標を基準年対比で換算すると毎年▲2.7%の削減となり、挑戦的な目標である。参考までに、国のカーボンニュートラル達成目標は、2013年対比で2040年までに▲73%削減（基準年対比毎年▲2.7%）となっている。

（３）年度別目標の達成手段とネガティブインパクト

当社は、年度別目標の達成に向けて、以下の取り組みを進める。

- ・出張修理用トラックの入れ替え
- ・自社ヤード内における洗車機の入替え
- ・LED照明への切り替え、エアコン設定温度の適正化等による消費電力削減
- ・従業員へのエコドライブと節電意識の徹底

【ネガティブインパクトの懸念と回避策】

- ・当社は買取・販売する建設機械等の運搬を運送会社へ外注している。外注先の運送会社に対し、タイトな配送スケジュールの設定や厳しい運賃交渉等を行うと、サプライチェーン全体の労働環境悪化や過積載、安全運転躊躇による事故リスクが懸念される。外注先は地域・グローバルに貢献する公平・公正な関係を結ぶ重要なパートナーであると位置づけ、パートナー企業の環境負荷低減にも協力する姿勢を徹底することによりネガティブインパクトは回避され则认为られる。

（４）年度別目標の妥当性

当社は武蔵野銀行の協力のもと、目標の有意義性や計画の妥当性の検討を踏まえたうえで年度別目標を設定した。年度別目標は定量的なものであり、達成状況について武蔵野銀行及びぶぎん地域経済研究所からの検証が可能である。

（５）ローンの特性

貸出期間中に適用される金利スプレッドは、①当社が年度別目標の達成に向けた取り組みの進捗を武蔵野銀行及びぶぎん地域経済研究所に報告すること、②達成状況についてぶぎん地域経済研究所による検証を受けること、③年度別目標を達成すること、の３要件により確定する。金利スプレッドの変動内容については、年度別目標の達成状況などに応じて縮小・拡大が想定されており、融資の契約書類において特定される予定である。

４．モニタリング

（１）定期レビュー

当社は年度別目標の達成状況を書面等により武蔵野銀行に提出する。これにより武蔵野銀行は年度別目標の達成状況に関する最新の情報を入手できる。

（２）SPTs達成検証

ぶぎん地域経済研究所は、当社の年度別目標の達成状況について検証し、武蔵野銀行へ報告する。

以上



1. ぶぎん地域経済研究所のオピニオンについて

本文書は、貸付人が借入人に対して実施する「むさしのフレンズローン NEXT」サステナブルファイナンスについて、ローン・マーケット・アソシエーション（LMA）等の「サステナビリティ・リンク・ローン原則」及び環境省の「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」を参照し設定する目標としての合理性に対するオピニオンを述べたものです。そのため、本文書は、「むさしのフレンズローン NEXT」が「サステナビリティ・リンク・ローン原則」又は「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」に記載された諸原則に適合していることを何ら保証するものではありません。また、本文書の内容は、現時点で入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて現時点での状況を評価したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。ぶぎん地域経済研究所は、当文書のあらゆる使用から生じる直接的、間接的損失や派生的損害については、一切責任を負いません。

2. 武蔵野銀行との関係、独立性

ぶぎん地域経済研究所は武蔵野銀行グループに属しており、武蔵野銀行及び武蔵野銀行グループ企業との間及び武蔵野銀行グループのお客さま相互の間における利益相反の恐れのある取引等に関し、法令等に従い、お客さまの利益が不当に害されることのないように、適切に業務を遂行いたします。また、本文書にかかる調査、分析、コンサルティング業務は武蔵野銀行とは独立して行われるものであり、武蔵野銀行からの融資に関する助言を構成するものでも、資金調達を保証するものでもありません。

3. ぶぎん地域経済研究所の第三者性

借入人とぶぎん地域経済研究所との間に利益相反が生じるような、資本関係、人的関係などの特別な利害関係はございません。

4. 本文書の著作権

本文書に関する一切の権利はぶぎん地域経済研究所が保有しています。本文書の全部又は一部を自己使用の目的を超えて、複製、改変、翻案、頒布等を行うことは禁止されています。